

1. 単元名 詩でリフォーム ～言葉による空間の彩り～

文学を愉しむ子ども～子どもの自発性を促すために必要な国語的空間の設定～


2. 単元設定の理由

(1)単元について

詩教材「水平線」では、子どもたちは詩が一行一行切り離された状態で出会い、つなぎ合わせて詩を作るという活動を行った。口調や作品から想像した詩の世界をもとに選り分けを行ったり、言葉の配置や意味のつながり考えたり、同じ言葉でも直後に続けるのか、離すのかによっても表される作品世界が変わってくるということに気づいたりしていた。このように子どもたちは発見的、体験的に表現のしくみや詩を読む方法を蓄積してきている。創作においては、五感を意識して冬の詩を書くという方法に取り組んだ。このことにより、普段はあまり季節をあまり意識していなかった日常生活を見つめ直したり、言葉からいろいろな感覚を想像できることに新鮮味を感じていたりした。また、自分が惹きつけられた友達の詩の工夫や意図を考えたり、聴き合ったりすることで、詩に込められた意味の気づきを深め、もっと工夫をして書きたいという意欲へとつながっていった。一方で、子どもたちが作った詩は、創作の際にモデルにした詩の形式を真似たものが多く、詩というよりも、物語に近いものもみられた。

本単元では、まず、詩を読むことの意味やよさについて考えさせたい。詩は物語よりも短く、全体がとらえやすい特徴がある。表現のしくみの効果を考えることで言葉に対する理解も深められる。ただ、詩を読んだ経験が少ない子どもたちにとってはすぐに詩のよさについて思い浮かべ、実感できるものではない。そこで、詩のアンソロジー作りを行うことで、いろいろな詩に出会わせていきたい。多くの詩に触れることで、自分のテーマを決めて詩を読み比べたり、それぞれの詩人の作品の特徴やものの見方などに気づかせていったりする。そして、自分たちの生活の中に取り入れたり、生かしたりできないかということについて考え、詩を飾る活動へとつなげていく。詩を飾るとなると、飾る詩と飾る場所を考える必要が出てくる。「どんな場所に詩を飾りたいか」と考えることで、場所のもつイメージを膨らませ、それに合った詩を考える。すると、お気に入りの詩という観点で詩を読む活動を続けてきたものが、飾るのにふさわしい詩という観点で詩を捉え直し、相手意識や目的意識をもって詩の内容やメッセージを読むことになる。

(2)単元の目標

学習指導要領の資質・能力		そうぞうの実践力が発揮される姿
学びに向かう人間性等	表現のしくみの効果に着目して詩を読んだり書いたりし、自分の生活と関わらせて読み味わおうとしている。	 自分の生活世界と詩の作品世界を結びつけることによって生まれる意味や価値を見出そうとしている。
思考・判断・表現等	相手や目的を意識した表現になっているか確かめ、作品を選んだり、書き直したりしている。(書くエ) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくこと(読むカ)	
知識・技能等	言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。	

(3)活動構成の仮説

文学を生活に用いるという国語的空間を設定することで、文学作品の意味や価値を見出し、日常のものの見方を深めるそうぞうの実践力へとつながっていく。

子どもたちが様々な詩に出会っていくなかで、自分にとってよさを感じるものと思うものとそうでないものがあることに気づく。それぞれの詩に対する捉え方はもちろん人によって違うものとなるだろう。しかし、自分にはあまり大事ではないと思っていたものも、相手の考えを聞いて意味が変わって見えてくるものが出てくる。言葉の意味・面白さ、詩人のものの見方、その詩の世界やメッセージが自分の経験と結びつき、身近なものとして捉えられたり、理解できたりする。そして、自分の生き方・考え方の一部分となっていく。とくに、象徴性の高い詩は子どもたちにとって自分の力で意味を捉えるのは難しいといえる。詩を飾るという活動を通すことで、詩を場所に重ね、自分に引きつけて具体的にとらえることができたとき、自分にとっての詩の意味が見出せるのではないだろうか。さらには、言葉によってなんとなく過ごしていた身の回りの日常空間が豊かな空間に見えたり、想像を巡らすことができたり、意味ある空間として浮かび上がってきたりする。そのような体験がそうぞうの実践力の発揮された姿であると考え、授業を構想する。

3. 指導計画（本時 6時間目／全7時間）

学習活動の流れ	子どもの意識	教師の役割	評価			
<p>1. いろいろな詩と出会い、お気に入りの詩を見つけよう。（2時間）</p> <p>①気に入った詩や詩を読んで気づいたことを書き溜めていく。（並行読書）</p> <p>②お気に入りの詩とその理由を交流する。</p> <p>2. 学校に飾るのにふさわしい詩を見つけよう。（2時間）</p> <p>①場所について考え、どんな詩を飾るのがふさわしいかについて交流する。</p> <p>②その場所に合う詩を選んだり、作ったりする。</p> <p>3. 自分が選んだ詩と飾る場所について交流する。（本時）（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが選んだ詩を読み、飾るのにふさわしいと思ったものを選ぶ。 選んだ詩と飾る場所について交流する。 詩を飾るという活動を振り返る。 <p>4. 実際に場所に飾る詩を作る。（1時間）</p>	<p>詩を読むことのよさや意味は何だろう。</p> <p>心に残る言葉が見つかる。</p> <p>短いものが多いから、物語よりも気軽に読めそう。</p> <p>詩に込められた意味を考えるのが好きだな。</p> <p>お気に入りの詩を見つけよう。</p> <p>金子みすゞさんは、私たちが普段気づいていないようなことにも目を向けられていてすごいな。</p> <p>力強さを感じる反復のリズムがこの詩のいいところだな。</p> <p>谷川俊太郎さんみたいに、いろんな例を挙げてリズムのよい詩を書いてみよう。</p> <p>詩や物語を生活に生かそう。どんなことができそう。</p> <p>作者や人物の生き方を受け取る。伝え合う。</p> <p>もっと詩や物語を作って楽しみたいな。</p> <p>心に残った言葉や作品を記録していきたいな。目に触れるところに置いておくのもいいな。</p> <p>「こんなところに詩があったらいいな！」という場所を見つけよう。</p> <p>校門は、いろいろな人が通る玄関だな。</p> <p>運動場はみんなの元気な声が響く笑顔があふれる場所。</p> <p>学校に飾るのにぴったりな詩を見つけよう。</p> <p>校門は一日の始まりの場所。みんなが笑顔になれる明るいイメージの詩が合うな。</p> <p>校門はいろいろな人が通る入り口だから、この学校のよさをアピールできるものを飾りたいな。</p> <p>給食室。食事を楽しんだり、感謝したりすることを感ぜさせる詩を作ろう。</p> <p>「詩×学校」 何か見える世界は変わるかな。</p> <p>「とびぼごだんだん」の詩を体育館に飾りたいな。飛べないことを怖がるよりも、チャレンジする楽しさを低学年の子にも感じてほしいな。</p> <p>飾る場所を考えることで詩から受け取るメッセージがよりはっきりとしたな。</p> <p>飾る場所と読んでくれる人を意識して考えた。詩で場所のとらえ方が変わりそうだな。</p> <p>実際にその場所に飾ってみよう</p> <p>その詩にあった色画用紙に貼ったり、絵を添えてもいいね。</p> <p>字体や文字の配置を工夫してもいいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 詩集の「はじめに」で書かれている文章を読み聞かせ、詩を読むということについて考えさせる。 詩を選ぶ際に、詩のテーマやその詩人の詩の書き方の特徴やもの見方などに気づかせ、メモさせる。 自分で書いた作品で気に入ったものを書きためていくのもよいとして促す。 図書館で詩集などを借りておき、いつでも読むことができる環境を整えておく。 場所、目的、飾りたい詩のイメージなど、詩を探す観点を共有できるようにさせる。 校内マップを用意したり実際にその場所を確認したりして、自分が選んだ詩を飾るのにふさわしい場所をイメージさせる。 読み取った詩の世界や内容についても交流するように促す。 字体や字形、文字の色、レイアウト、貼る画用紙の模様や色などを考えさせる。 	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>表現のしくみの効果に着目して詩を読んだり書いたりし、自分の生活と関わらせながら進んで詩を読んでいる。</p> <p>場所にふさわしい詩を選んだ理由を伝え合い、互いの考えのよいところを見つけようとしている。</p> <p>相手や目的にあった詩の表現を探すことのよさを感じている。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>相手や目的を意識して経験したことや想像したことなどから作品や書くことを選び、集めた材料を比較したりして分類したりして伝えたいことを明確にしようとしている。（書くア）</p> <p>相手や目的を意識した表現になっているか確かめ、作品を選んだり、書き直したりしている。（書くエ）</p> <p>文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方の違いに気付いている。（読むカ）</p>	<p>知識・技能</p> <p>相手意識や目的意識をもって、言葉をとらえなおしたり、表現のしくみに着目したりすることで語彙や言語感覚を豊かにしている。</p>	<p>そうぞうの実践力</p> <p>作品の表現のしくみに着目したり、作品から受け取ることができるメッセージについて考えたりしている。</p> <p>生活場所と関わらせることによって、詩の世界や言葉の意味を捉え直している。</p> <p>自分の生活世界と詩の作品世界とを結びつけることによって生まれる意味や価値を見出そうとしている。</p> <p>場所に合う詩を探すことを通して、自分のものの見方や捉え方について再認識している。</p>